

# 競技ルール改正一覧

2025年1月末現在

競技の公式ルールや試合の運用方法、表記が下記のように改正されました。下線部が改正の対象となったところ、太字が新たに改正された内容です。

本文を新ルールや新表記に訂正してご使用ください。

※ページの( )内は2024年度版までのページです。

種目	ページ	改正点 (旧ルール・旧表記)	新ルール・新表記
ハンドボール	p.124~ p.141 (p.130~ p.147)	【技術の名称など】 <u>ショルダーパス</u> <u>アンダーハンドパス</u> <u>ロングシュート</u> <u>ポスト</u> <u>サイド</u> <u>カットイン</u>	オーバーアームパス アンダーアームパス ディスタンスシュート ピボット ウイング ブレイクスルー  (ルール改正ではなく、世界基準の用語にそろえるため、技術の名称を中心に変更した。)
ラグビー	p.164~ p.165 (p.168~ p.169)	【競技場のラインやエリアの名称】 <u>ゴールライン</u> <u>インゴール</u>  【主な反則】 <u>ノックオン</u>	トライライン トライゾーン(トライエリア)  ノックフォワード  (ルール改正ではなく、日本ラグビーフットボール協会のラグビー用語変更に伴い、表記を変更した。)
ソフトテニス	p.211 (p.209)	【ラケットの握り方(グリップ)】 [下の写真] <u>イースタングリップ</u>	コンチネンタルグリップ  (ルール改正ではなく、グリップの名称変更。同じ握り方だが、日本ソフトテニス連盟の指導教本の改訂に伴い、表記を変更した。)

種目	ページ	改正点 (旧ルール・旧表記)	新ルール・新表記
剣道	p.278	<p>【剣道試合・審判規則】 〔反則〕 ⑧ <u>打突意思のないつばぜり合い、不当な打突。</u></p>	<p>⑧ <u>3秒程度以上の長いつばぜり合い*</u>、不当な打突。 *「正しいつばぜり合いか」「打突の意志があるか」「分かれる意志があるか」の観点で審判が総合的に判断し、原則としてどちらかに反則を与える。</p> <p>(ルール改正ではなく、試合の運用方法の改正。新型コロナウイルス感染症の流行期間に、つばぜり合いの時間を短くする運用が約4年間実施され、公明正大な試合となったことから、その運用を継続することになった。) ※「打突意思」の表記は、剣道試合・審判規則に合わせて「打突意志」とした。</p>
相撲	p.285	<p>【主なルール】 〔試合の進め方〕 ③仕切り 審判の「構えて」の声で仕切りに入り、「<u>手を着いて、待ったなし</u>」に続いて「<u>はっけよい</u>」の掛け声で試合を開始する。</p> <p>〔勝負規定 審判の行い方〕 2つ目の● ●主審は、競技者が土俵中央に進んで蹲踞したたき「<u>構えて</u>」の声を掛ける。競技者が仕切りに入ったら「<u>手を着いて、待ったなし</u>」と声を掛け、「<u>まだよ、まだよ</u>」「<u>手を着いて、手を着いて</u>」と声を掛けながら両者の呼吸を合わせ、「<u>はっけよい</u>」の声で立ち合わせる。</p>	<p>③仕切り 審判の「構えて」の声で仕切りに入り、「<u>両手を同時に着いて</u>」で両手を同時に着いて静止し、「<u>引きますよ</u>」に続いて「<u>はっけよい</u>」の掛け声で立ち合う。</p> <p>●両手を瞬間的に着く立ち合いは認められない。 ●不当な立ち合いが行われたときは、主審または審判長が「待った」を掛け、やり直す。 ●審判長または副審が、主審の判定に異議や疑義がある場合は、協議を行う。</p> <p>(立ち合いのルール改正に伴い、「③仕切り」にまとめて示すことで、審判の行い方の詳細を省略し、代わりに上記の●3点を追記した。上記の●3点は、従来からあったルール。)</p>